

国語総合

問題用紙

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※

オノマトペが言語であるというのは、日本語話者には比較的受け入れやすい考えかもしれない。日本語ではオノマトペが文の構成要素として頻りに現れる。「雲がフワフワと浮かんでいる」のように副詞として現れたり、「子どもがニコニコしている」のように述語の一部として現れたり、「よちよち歩き」のように複合語を作ったり、「コロコロがついた机」のようにオノマトペ単独で名詞となっているような例もある。実際、多くの文法学者はオノマトペを特別な要素と考えることはせず、他のことばと同様に副詞や名詞の一種と見なしているようである。

(A)、すでに述べてきたように、文ではなく単語レベルでは、オノマトペは体系的なアイコン性(音と意味の類似性)を持つという点で他のことばとはいくらか異なっている。

(中略)

以下では、人間の言語を言語たらしめる特徴のいくつかに着目し、オノマトペがいかに言語的なのかを考えていく。とくに、言語らしい言語の例に加えて、私たちが発する非言語音、口笛、咳払い、泣き声、音真似、とオノマトペを比較することで、オノマトペの言語らしさを浮き彫りにしていく。具体的には、コミュニケーション機能、意味性、超越性、継承性、習得可能性、生産性、経済性、離散性、恣意性、二重性という十個のキーワードから、オノマトペが一人前の言語の一員であるかを検討する。

経済性以外は、二十世紀半ばにアメリカの言語学者チャールズ・F・ホケットが、人間の言語と他の動物のコミュニケーションがどう異なるかを論じた際に含めた指標である。「言語の大原則 design features of language」のゴールドスタンダードとして言語学界隈で今なお広く論じられている。(中略)

十大原則に入る前に、言語の音声性・聴覚性について述べておく必要がある。言語は音声という媒体によつて実現され、聴覚のモダリティで処理されるということは、かつて2言語の大原則の一つとされていた。しかし、現代の言語学・認知科学では、この原則は明らかに誤りとされている。手話の存在があるからである。手話は、慣習的なC語彙と文法からなる自然言語の一種である。突発的に編み出されるジェスチャーではないし、エスペラント語のような人工言語でもない。

手話の媒体はおもに手であるが、そのほかに顔の表情や口の動きなども言語表現に用いられる。近年は、音声言語でも、言語は単語の音を発音することのみで表現されるのではなく、意味を際立たせるために音の高低や強弱をつけたり、単語を速く言ったり特定の音を延ばして発話して時間的な緩急や長短を使ったり、さらにはジェスチャー、視線、表情などの音声以外のモダリティも使つて意味を作り出している「マルチモーダル」なものであるという考えが受け入れられてきている。

オノマトペは一般語と同じように音声で表現され、聴覚で処理されるが、一般語よりもジェスチャーを伴いやすく、マルチモーダル性が高い。その意味では、オノマトペは現代における「言語」の定義によく合致する存在なのである。

言語の十大原則の話をはじめよう。言語を語る上で重要な観点の一つめは、発信の目的が、コミュニケーションに特化しているという性質である。ホケットはこれを「特定性」と呼んだ。言うまでもなく、音声言語であれ手話であれ、私たちの発話は相手に意図を伝えることを目的としている。

(B)、「ネコが好きなんです」という発話は、聞き手に自分の好みを教える。「ネコ!」という一語のみからなる発話であっても、特別な文脈がなければ、話し手(とおそらくは聞き手)の見えるところにネコがいることが聞き手に伝えられる。独り言や日記はこれに該当しないように思えるが、いずれも自分を相手とした擬似的なコミュニケーションという側面があると考えられる。

(C)、これらの発話を口笛や咳払いと比べるとより実感できる。口笛も咳払いも音声言語と同様、口から発せられ、聴覚で知覚される。ところが、いずれも多くの場合、誰かが聞くことが想定されてお

らず、コミュニケーションが意図されていない。この点で、口笛や咳払い（F）である。

（D）、スポーツ選手の離れ技に対して感動を示すために口笛を鳴らしたり、他人の無作法を指摘するために咳払いをしたりというような場面は存在する。それらの口笛や咳払いは、より言語的と言ってもよいかもしれない。しかし、いずれにしても、つねにコミュニケーションに用いられる発話と比べると、口笛や咳払いは言語性が低いと言えよう。

（E）、オノマトペはどうだろうか。「雷がピカッと光った」「床がツルツルしているね」「黄身がトロツとしていておいしい」という例では、それぞれ光り方、床の見た目や滑りやすさ、黄身の食感という情報を聞き手・読み手に伝える。「ドーン！」という一語発話も、爆発の様子を聞き手と共有し共感してもらうためのものである。つまり、コミュニケーションの相手に情報を伝達するという目的は、オノマトペと他のことばではとくに違わない。むしろ、書きことばよりも会話や育児場面でオノマトペが多く使われることを思うと、4 オノマトペはとくにコミュニケーション性の高いことばと言えるかもしれない。

※著者のオノマトペに関する記述には、『日本の研究者たちは、「オノマトペ」を擬音語、擬態語、擬情語を含む包括的な用語として用いている』とある。

（今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』）

問一 二重傍線部の a e の漢字の読みを平仮名で答えなさい。

問二 傍線部1「日本語話者には比較的受け入れやすい考えかもしれない」とあるが、なぜ筆者はそうのように考えるのか。「文法学者はオノマトペを」に続けて、本文中の語句を抜き出し、二十五字以内で答えなさい。（カギ括弧、句読点も字数に含める。）

問三 傍線部2「言語の大原則の一つ」とは、具体的にどんなことか。

本文中の語句を用いて三十五字以内で説明しなさい。（カギ括弧、句読点も字数に含める。）

問四 傍線部3「明らかに誤りとされている」という記述の根拠を筆者はどのように述べているか。その理由を、本文中の語句から十文字で抜き出しなさい。（カギ括弧、句読点も字数に含める。）

問五 空欄A～Eに入る適当な接続詞を次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア、このことは イ、では ウ、たとえば エ、ところが オ、もちろん

問六 空欄Fに入る語句を次のア～オの中から一つ選び書きなさい。

ア、無作法 イ、非言語的 ウ、音声言語 エ、言語的 オ、感動的

問七 傍線部4「オノマトペはとくにコミュニケーション性の高いことばと言えるかもしれない」という記述の根拠を筆者はどのように述べているか。その理由を、本文中の語句から三十文字以内で抜き出しなさい。（カギ括弧、句読点も字数に含める。）

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

好奇心に欠ける人には、厳しい時代である。

「これをやりなさい」と言われて、何も疑わずにその通りにできて、成績がよくaギョウギがよければ、仕事は山ほどあった時代には、好奇心が僅少でも、人は社会の中枢でbカツヤクできたのに。

「好奇心」の育て方。これが人間社会の課題になる日が、ほどなくやってくる。

かといって、学校教育を「好奇心を育てる」に安易にシフトするのは、1私は賛成できない。学校教育で手にするのは、「思考の道具」である。道具の使い方を覚える道のりは、わくわくしてばかりもいられない。数学のセンスを身につけなければ、物理の世界を本当に楽しむことはできない。宇宙論を脳でつかむためには、微分積分やベクトルの本質的な理解が必要不可欠なのだ。奇想天外な実験にきやあきやあ言ったり、星を見つめたりするだけでは、本当の「科学の心」は育たない。もちろん、それをやるのが悪いとは思わないけど。

私自身は、化学式や方程式、元素周期表を見るだけでわくわくした。「何かがモデル化されて数字になっていること」に強く好奇心を感じたからだ。先生が余分なことを言わずに、クールに式を教えてくれるほうが好みだった。実験は嫌い。「だから？」って感じだった。

ヒトの脳の好奇心は、楽しいから伸びるわけじゃない。「何かわからないけど、美しいものを見せられて、その謎を知りたい」と思うときに、最も強く働くのではないだろうか。圧倒的に美しいもの。それが「式」の人もいれば、「詩」の人もいれば、「音楽」の人もいれば、「ダンス」の人もいる。

一方で、私は社会科が、気が遠くなるほど苦手だった。政治経済に関しては、おおよそ何も理解できなかったし、成績も最悪だったし、今もお金の流れがわからない。

政治にも経済にも、私は「美しい(理)になっいて、気持ちいい」と感じるものが一度もなかった。政治経済に関して言えば、会社経営の「楽しい」ロールプレイングの授業があったなら、今ごろ、もう少し自分の会社を大きくできていたのに違いない。

2 センスのない科目には「楽しい体験」の授業が、センスのある科目には、余分な情報を削ぎ落としたクールな授業が、きつと有効なのだろう。そして、後者で育つ好奇心のほうが、人工知能へのカウンターバランスとして人類が追求すべき、本質的な好奇心なのだと私は思う。

3 平たく言えば、本当に好奇心が、ワクものは、「チラ見せ」されてつれなくされたほうが燃えるってことだ。一方で、僅少な好奇心は、楽しく誘って火をつけないとね。

本当に核心を衝く情報は、4 クールなほうがホットになる。これは、コミュニケーションのd オウギとして、人工知能も知っておくといい。

そうそう、大事なことをもう一つ。

ヒトは、手に入らないものに憧れて、好奇心を増幅させる傾向がある。だから、「天才と呼ばれる名手」が、案外あっさりと、その才能を投げ出してしまうことがある。天才を育てるには、永遠の謎とか、

e キュウキョクの挑戦とかが必要なのだ。オリンピックは、(X)、人類の脳の進化のためにもきつと重要なのである。

(黒川伊保子『人間のトリセツ』)

問一 二重傍線部のaとeのカタカナをを漢字で答えなさい。

問二 傍線部1「私は賛成できない」のは、どういう理由からなのか。「学校教育」という言葉を含めて、二十五字以内で答えなさい。(カギ括弧、句読点も字数に含める。)

問三 どんな時に「ヒトの脳の好奇心は最も強く働く」のか。本文中の語句を用いて三十字以内で説明しなさい。(カギ括弧、句読点も字数に含める。)

問四 傍線部2「センスのない科目」とは、どんな科目だと筆者は考えているのか。三十五字以内で答えなさい。(カギ括弧、句読点も字数に含める。)

問五 傍線部3「平たく言えば」と同じ意味で使われている文章は、次のうちどれか。ア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、くわしく言えば、AはBということである。

イ、くらべて言えば、AはBということである。

ウ、わかりやすく言えば、AはBということである。

エ、むずかしく言えば、AはBということである。

オ、たとえば言えば、AはBということである。

問六 傍線部4「クールなほうがホットになる」という表現は、どういう意味か。文中から、二十二文字で書き抜きなさい。(カギ括弧、句読点も字数に含める。)

問七 空欄Xに入る適当な語句を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、さらに イ、だから ウ、もしかしたら エ、たとえば オ、また

問八 『好奇心の育て方』で、筆者の考え方に合わないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、本当に楽しむために、教科のセンスを身に付けさせる。

イ、奇想天外な実験をして喜ばせたり、きらめく星を見せたりする。

ウ、なかなか手に入らないものに、憧れをいだかせるようにする。

エ、美しいものを見せて、その謎に興味をいだかせるようにする。

オ、僅少な好奇心を見せて、わくわくするようにする。

令和7年度 英語

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

1. 次の英文を読み、設問に答えなさい。(配点 50 点)

Though water covers 70 percent of the earth's surface, we know very little about the deepest regions of the oceans. Sunlight does not reach below 300 meters, and the darkness, cold, and water pressure make the depths difficult to explore. But that hasn't stopped us (1) trying. In 1960, a specially (A) vessel, the *Trieste*, touched down on the sea floor 10,916 meters below the surface, deeper (2) anyone has ever gone. Although we've only mapped 10 percent of the ocean floor so far, an (B) project by Google, called Google Oceans, aims to map and photograph the depths (3) people can explore the ocean online.

For centuries, it was believed there was little or no life at the bottom of the ocean, but discoveries in the 20th century, including an important finding in 1977, changed that perception. That year, a robotic craft exploring 2.5 kilometers below the sea surface discovered an entire ecosystem near a hydrothermal vent. Minerals and hot water from beneath the earth's crust shoot up through the vent. Deep sea bacteria use the sulfur from the stream as an energy source and serve as the basis of a food chain for ecosystems.

And when talking about the wonders of the deep, we can't overlook the marvelous creatures that have long captured our imagination. Perhaps the best (C) is the giant squid. Able to grow up to 18 meters long, it's one of the world's largest creatures. Yet even this beast is not the king of the sea. Sperm whales dive 1,000 meters or deeper to feed on the squid living at those depths. The dark sea also houses fish with special organs which produce light. These creatures use their lights to find prey, defend themselves, and communicate.

Given how little we know about the underwater world, some scientists feel we should focus (4) researching the oceans before branching out into space. Others are interested (5) the economic potential of hydrothermal vents, whose mineral contents include gold and copper. Still others just want to explore the last place on Earth that remains a true mystery.

hydrothermal vent(s) 熱水噴出孔 sulfur 硫黄 sperm whales マッコウクジラ

問 1. 本文中の空白 (1) ~ (5) に入る最も適切な単語を下記の中から選び、その記号を書きなさい。

A. which B. in C. for D. from E. so F. at
G. on H. but I. than

問 2. 下線部 (a) ~ (c) と同義の語を選び、その数字を書きなさい。

(a) 1. weep 2. increase 3. research 4. forbid

(b) 1. disregard 2. recognize 3. dislike 4. regard

(c) 1. perceive 2. eat 3. affect 4. miss

問 3. 本文中の空白 (A) には動詞 *build* の変化形、空白 (B) には *ambition* の形容詞形、空白 (C) には動詞 *know* の変化形が入る。それぞれの語を英語で書きなさい。

問 4. 本文中から以下の意味の語句を探し、英語で書きなさい。

(1) 「生態系」(1 語。単数形で)

(2) 「食物連鎖」(2 語)

問 5. 次の文について、本文の内容と一致するものには○、一致しないものには×を付けなさい。

ア. 深海には生物はいないという考えが変化したのは 19 世紀である。

イ. 深海に住む巨大なイカは「海の王」と言える存在である。

ウ. 深海に住む魚には光を発するものがいるが、それは餌を探したり、自分を守ったり、情報を伝達したりするためである。

2. 次の各組の見出しの単語の下線部と発音が同じものをア～エから 1 つ選びなさい。(配点 10 点)

A. reign ア statue イ weight ウ height エ bath

B. exact ア exhibition イ exercise ウ excellent エ examine

C. epoch ア chemist イ chamber ウ choice エ charge

D. glove ア prove イ global ウ love エ doubt

E. rough ア tough イ though ウ through エ daughter

3. 次の各組の中で第 1 音節に最も強いアクセントのあるものを 1 つ選び、その数字を書きなさい。(配点 10 点)

A. 1. nec-es-sary 2. con-ve-nient 3. va-ca-tion 4. e-con-o-my

B. 1. im-por-tant 2. ad-van-tage 3. cel-e-brate 4. con-tin-ue

C. 1. rep-re-sent 2. in-ten-sive 3. e-nor-mous 4. ob-vi-ous

D. 1. de-li-cious 2. en-ter-prise 3. con-sid-er 4. fa-mil-iar

E. 1. es-tab-lish 2. de-vel-op 3. bi-ol-o-gy 4. ar-chi-tect

4. 次の各文の () に入る最も適切な語句を 1 ~ 4 から選び、その数字を書きなさい。(配点 15 点)

- A. The usual () of a nurse is to take care of sick people in the hospital.
1. chance 2. patient 3. job 4. clinic
- B. We're looking forward to () skiing at Tomamu with you next Sunday.
1. go 2. going 3. went 4. have gone
- C. Billy is by no () stupid. He's just lazy.
1. means 2. ways 3. wealth 4. degrees
- D. I'd like to read books () in easy English.
1. wrote 2. write 3. written 4. writing
- E. () you have to do is to stay here, George.
1. Only 2. Which 3. Why 4. All

5. 次の A と B の会話で、文中の空所 (1) ~ (5) に入る最も適切な文を下段の英文から選び (1 回のみ)、その記号を書きなさい。(配点 15 点)

A: Excuse me. I got lost. Can you please tell me how I can get to the post office?

B: (1)

A: Actually I arrived here in this city just three days ago. (2) Is it far from here?

B: (3) Let me see. (4) Make a left at the big hotel and go past the fruit market. The post office is across from the bus stop.

A: I see. Straight, a left, and it's across from the bus stop. Thanks.

B: No problem. (5)

-
- a. It's about 10 minutes' walk.
b. Have a pleasant stay.
c. Go straight down to the corner.
d. Well, it's on Maple Street.
e. So I'm a stranger here.